



「より良い社会」の設計図を

政治と行政の仕組みから

川島 佑介 准教授  
Assoc. Prof. Yusuke Kawashima

専門部門  
財政・行政

### 「当たり前」の裏側にある、社会を動かす仕組みを学ぶ

— 「行政学」の講義について教えてください。

皆さんの身の回りにある公園、道路、あるいはゴミの収集といった公共サービスが、どのようなルールで運営されているのか。「行政学」では、そうした私たちの生活に不可欠な「公共」の仕組みを学びます。講義では、単に制度を暗記するのではなく、なぜその仕組みが必要なのかという「背景」や、そこに働く人々の「動機」に注目します。たとえば、一つの都市再開発を行うにも、そこには政治家の理想、行政職員の論理、そして住民の生活という異なる視点が複雑に絡み合っています。それらがどのように調整され、一つの決定に至るのか。そのプロセスを紐解くことで、世の中の見え方が変わる面白さを伝えていきたいと考えています。

— 先生の専門である「都市再生」は、私たちの未来にどう関わりますか。

私はこれまで、ロンドンの港湾地区の再開発(ウォーターフロント開発)を

研究してきました。かつて産業を支えた古い港が、どのようにして人々が集まる魅力的な街へと生まれ変わるのか。そこには行政による緻密な戦略と、変化を恐れない挑戦があります。都市の姿は、その時代の社会の写し鏡です。今ある街をどう守り、どう変えていくか。その最適解を導き出すための知恵(叡知)を、過去の事例や理論から学び取るとは、人口減少や気候変動といった課題に直面するこれからの日本において、極めて重要な「生きる力」になると確信しています。

### 巨人の肩の上で養う揺るぎない「自分の視点」

— ゼミではどのような活動を大切にされていますか。

川島ゼミでは「都市における政治と行政」をテーマに、学生が主体となって研究を進めます。大切にしているのは、安易な思いつきで結論を出さず、まずは「徹底的に知る」ことです。先人たちが積み上げてきた膨大な知見を理解した上で、自分たちの問いを立てる。これを「巨人の肩の上に立つ」と言いますが、

正しい知識という土台があってこそ、初めて独自の鋭い考察が生まれます。新聞記事の分析や、時には実際に現場へ足を運ぶフィールドワークを通じて、公務員を目指す学生も、民間企業へ進む学生も、社会を多角的に分析できる「科学的な眼」を養ってほしいと願っています。

### 在学生の皆さんへ

大学での学びは、正解のない問いに自分なりの答えを見つけていく旅です。都市情報学部は、政治、経済、情報、環境など、異なる専門性を持つ教員が揃っています。この豊富な環境を存分に活用してください。「社会を少しでも良くしたい」という純粋な好奇心があれば十分です。まずは本を読み、議論し、世界を深く理解することから始めましょう。そこで得た知識は、皆さんが将来、どんな道に進んでも自分を支えてくれる一生の財産になるはずです。ぜひここで多くのことを吸収して、社会に羽ばたいていってください。